

第5回π造形若手会に参加して

九州大学 古田研究室 鹿毛 悠冬

略歴

2015年 九州大学工学部物質科学工学科 卒業

2017年 九州大学大学院工学府

物質創造工学専攻修士課程 修了

2017年 九州大学大学院工学府

物質創造工学専攻博士課程 入学

趣味：カメラ、釣り、ギター



2018年10月4~6日に愛知県蒲郡市にて開催された第5回π造形若手研究会に参加させていただいた。若手会に参加するのは4回目になるが、どの若手会も非常に勉強になるものだった。僕が思う若手会は、学生同士が実験の裏話を含めて密に議論することで、自分の知らなかったことを感情とともに取り込む場である。特に勉強をはじめたばかりの学部生や修士生にとっては、普通の学会（日本化学会年会など）よりも若手会のほうが数倍勉強になると思っている。今回、自分の若手会に対する思いを綴る機会をいただいたので、これまでの若手会も含めて所感を書かせていただく。

話は初参加の第2回π造形若手会にさかのぼる。当時M1だった僕は、π造形の先生方の研究はおろか、自分の研究の関連分野すらほとんど知らない有様だった。もちろん、己の怠慢が原因である。勉強すればよい。論文を読むようにと先生に何度も言われた。いろいろなジャーナルの最新号をチェックし、何となく面白そうな論文を眺めてはいたものの、知識が蓄積している気はしなかった。そんな中、先生に連れられて参加したのがπ造形若手会であった。ポスター発表の後、夕食、懇親会では研究の苦労話やそれから派生する馬鹿話をして親睦を深めた。勉強不足な当時の僕にとっては、正直なところポスター発表よりも懇親会で聞いた面白い馬鹿話の方がはるかに記憶に残りやすかった。ただし、若手会はその馬鹿話と研究の話がセットになるところが本当に良い。若手会から帰ると、懇親会で知り合った人の馬鹿話とともにその人の研究室がどんな研究をしているかが頭に入っていた。それ以降、若手会に参加するたびに知っている世界が広がっていくのが分かった。ジャーナルの最新号をチェックすると、知り合いの名前が現れる。懇親会で交わした苦労話や馬鹿話を思い出しながらその論文を読むと、内容

がしっかり頭に残る。まさに、若手会は知識を広げるきっかけを作る最強の学会だと思った。

そんな中、第5回若手会の案内とともに、名古屋大学の三宅先生から学生講演の依頼をいただいた。これまでの若手会の講演といえば先生方が主であり、そんな中で学生講演をされる博士の先輩ともなれば本当に優秀な方ばかりだった。自分に学生講演が務まるのかどうか、不安が募る。しかし、自分を育てていただいた若手会への感謝を示す意味合いもあって、思い切って受けさせていただいた。気合を入れて臨んだ講演本番は滞りなく終わられたと自負しているが、本当に嬉しかったのはその日の懇親会で僕が講演した分子をネタに馬鹿話が盛り上がったことだった。これが自分の思う若手会の醍醐味である。一人でもいい。今回の僕の講演と懇親会での話が、後輩の知識を広げるきっかけとなることを願う。

また、余談だが、懇親会では今年度で π 造形が終了するのを惜しんで続編である「 π 造形科学・乙」を作ろう！という勝手な妄想まで出来上がってしまった。皆、 π 造形若手会に寄せる思いは多々あるのだと感じた。

自分の学生での研究生生活も残り少なくなってきたが、今ある知識と、知りあった人は本当に財産だと思う。自分のこれからの研究だけでなく、後輩にも還元していけるよう努力したい。